

池田文書の研究 (36)

武家華族の書簡 (その1)

池田文書研究会

武家華族の書簡は秋元家、有馬家、安部家、伊東家、稲葉家、大河内家、大給家、奥平家、加納家、亀井家、酒井家、相馬家、伊達家、津軽家、徳川(家達)家、徳川(慶勝)家、徳川(慶久)家、戸田家、長岡家、鍋島家、蜂須賀家、北條家、松平(斉民)家、松平(慶永)家、松平(直亮)家、松平(直致)家、松浦家、毛利家、山内家の29家より102通ある。別に関連資料として出入り医師の書簡等7通を入れた。

これらの書簡を2回に分けて掲載する。

この中で書簡数の多い亀井家は、池田謙齋の養父池田多仲(玄仲)が藩医として仕えた津和野藩主家に当る。又徳川家達の書簡は殆ど華族会館々長としての通達印刷物である。

[1] 秋元家家扶の書簡

秋元家は上野館林藩主家(6万石)

興朝^{おきとも}は戸田^{ただゆき}忠至の2男として安政4年生まれ秋元礼朝^{ひろとも}の嗣養子となる。特命全権公使。大正6年没。子爵。享年61。(1857-1917)

1 明治 年6月4日 (79)
(端裏書) 池田^(ママ)賢齋様 秋元興朝 家扶 印
御調合所御中

益御清適奉拜賀候、陳は主人事但州城ノ崎湯ノ島温泉エ入浴仕度願書過日差出候ニ付、不日願濟ニ相成候ハ、速ニ出立可仕見込ニ付、兼て相願置候道中用意之薬御調合相願候、一兩日中願相濟候ハ、猶可申上候得共、此条前以一応申上置候、可然様賢齋様へも被仰上置可被下候、頓首

六月四日

[2] 有馬家家令(鶴飼広定)・家扶の書簡

有馬家は筑後久留米藩家(21万石)

頼萬^{よりつむ}元治元年生まれ昭和2年没。伯爵。享年64。(1864-1927)長男頼寧^{よりやす}は昭和初期農村問題で活躍し農林大臣等歴任。

1 明治 年2月6日 (568)
益御安泰奉賀候、然は過日来御心配奉願候主人人格試験之義、御見込之通り不合格ニ相成申候、就テハ目今式部寮出勤候付、同寮即チ文官ニテ相尽す心得ニ御坐候、此段御礼旁一応不取敢申上置候也

二月六日 家令 鶴飼広定
池田謙^(ママ)齋殿 侍史御中

2 明治 年2月19日 (831)
益御昌祥奉賀候、然は先日主人より願置候士官学校試験之義不日相始り候趣、該医官ハ戸山学校二等軍医正菊地篤忠相係り候哉、旁何卒同人え御一書御投与被成下候様奉願度候、右ハ近頃恐縮之仕合候得共、可然御手数奉願候也

二月十九日 有馬頼萬家令 鶴飼広定
池田謙^(ママ)齋殿 侍史御中

尚々万一ニモ他員と相更り候哉モ難斗、他員ト申テモ一兩名之内ニ付其辺モ可然御書添被下候様相願候也

3 明治 年2月22日 (830)
益御清昌奉賀候、然は頃日書上奉願出候検査医官云々之義、来ル廿五日内検査有之趣申来り、医官ハ菊地某之由ニ付、尚又申上書之条可然奉願候也

二月廿二日 有馬家令 鶴飼広定
池田謙^(ママ)齋殿 侍史御中

4 明治 年12月18日 (71)
記

一、金五門

右薄謝進呈被致候条御領受可被下候也

十二月十八日 有馬頼萬 家扶

池田謙齋殿 机下

[3] 安部信発の書簡

^{あんべ}安部家は武蔵岡部に陣屋を設け、明治元年に三河半原に陣屋を移した(2万250石)

^{のぶき}信発は弘化2年生まれ明治28年没。子爵。享年51。(1845-1895)

本書簡は池田謙齋の次男次郎が安部家の嗣養子となった関係で池田家に残ったものと思われる。

1 明治(4)年4月 日 (58)

臣 信發敬白 大政復古宇内一新御制度大変革可有之奉存候処、薩長肥土四藩之建言伝承仕、至当之確言奉存候、弊藩儀采地人民等奉還仰待天裁度奉存候、此旨宜御執奏之程奉懇願候、誠恐誠惶謹言

四月 日 安部撰津守 信發 花押

[4] 伊東家家扶・家従の書簡

伊東家は日向飢肥藩主家(5万1080石)

^{すけより}祐婦は安政2年生まれ明治27年4月没。子爵。享年40。(1855-1894) ^{ようこ}妹養子は ^{これあき}亀井茲明夫人

1 明治 年2月1日 (505)

前略御免、陳は主人祐婦事昨今持病ノ気味ニ候間、其思召ニて御調合被下候様奉願上候、頓首

二月一日 伊東祐婦 家扶

池田様御内

小原様

2 明治 年2月8日 (504)

伊東祐婦之散葉、此ものニ差上仰付被下候様御願申上候

二月八日 伊東祐婦 家従

池田様

御調葉所御中

二白、黒木林平之含葉ヲモ此者ニて御願申上候

[5] 稲葉正邦の書簡

稲葉家は山城淀藩主家(10万2000石)

正邦は天保5年生明治31年没。幕末京都所司代・老中として活躍。江戸城明け渡しには恭順派として時局收拾に尽力。子爵。享年65。(1834-1898)

1 明治21年3月25日 (1252)

拜啓、愈御多祥之条欣喜不斜候、陳は乍卒爾御倚頼之件有之、西沢之助ナル者参殿為致候間、御繁忙中ニ可有之候へ共御面謁相協候様仕度、此段御倚頼迄如斯候也

明治二十一年三月廿五日

正四位 稲葉正邦 印

従四位 池田謙齋殿

[6] 大河内正質の書簡

大河内家は上総大多喜藩主家(2万石)

^{まさただ}正質は弘化元年生まれ明治34年没。幕末老中を勤め、戊辰戦争後謹慎。後に宮内省・東京麹町区長を勤める。子爵。享年58。(1844-1901) 長男大河内正敏は三河吉田藩主大河内家の嗣養子となり、後理化学研究所を設立

1 明治 年1月29日 (733)

拜啓、陳ハ過日仏国より出来参り候馬車率道具御紋上下取附方相違致居候ニ付、付ケ直シ方申付置候処、本日出来持参仕候間、則御厩課え御預り置申候、御都合次第御取寄相成度、該品ハ先東京中稀ナル上等之品ニ御坐候、御馬車ハ此後之船便ニ着荷可致趣ニ御坐候、右申上度迄、早々如此候也

一月廿九日

大河内正質

池田謙齋殿

2 明治 年3月17日 (732)

拜読、陳は馬車代金千百弗御差回相成、正ニ拜受仕候、本人今日出課致候筈ニ付出頭次第相渡可申候、拜復

三月十七日

大河内正質 印

池田謙斎様

[7] 大給恒の書簡

大給家は竜岡（信濃田野口）藩主家（1万6000石）

恒は天保10年生まれ明治43年没。幕末陸軍奉行・老中格を勤め幕府軍制改革に尽くす。維新後恭順の意を示し新政府に協力賞勲制度を確立、賞勲局総裁・赤十字社（博愛社）の設立に参画。伯爵。享年72。（1839-1910）

1 明治30年6月1日 (753)

従四位子爵 安部信順⁽¹⁾

明治二十七八年戦役ノ際従軍者家族扶助ノ為メ金
式円寄附候段奇特ニ候事

明治三十年六月一日

賞勲局総裁正三位勲一等子爵 大給恒 印

(1) 安部信順は三河半原藩主信発の嗣養子。安政5年生まれ大正10年没。子爵。享年64。（1858-1921）

2 明治30年6月1日 (754)

従四位子爵 安部信順妻 信子

明治二十七八年戦役ノ際報国ノ旨意ヲ以テ有志共
同軍用品献納候段奇特ニ候事

明治三十年六月一日

賞勲局総裁正三位勲一等子爵 大給恒 印

3 明治32年1月21日 (752)

正四位子爵 安部信順

明治二十九年六月三陸津嘯ノ際宮城巖手青森県下
罹災者へ金拾円救恤候段奇特ニ付為其賞木杯壹箇
下賜候事

明治三十二年一月廿一日

賞勲局総裁正三位勲一等子爵 大給恒 印

[8] 奥平昌邁・中井常次郎の書簡

奥平家は豊前中津藩主家（10万石）

昌邁は伊予宇和島藩主伊達宗城の4男。奥平昌
服の嗣養子。安政2年生まれ明治17年11月26日

没。幕末維新に活躍功あり、民部・大蔵卿歴任。伯爵。享年30。（1855-1884）

中井常次郎は華族・政府高官家に入出入する医師

1 明治 年10月23日 (703)

拜啓、昨日は御来車被下奉万謝候、陳は是迄水劑
二種相用居候処、食後ノ水劑は相止メ散葉ト水劑
一種相用ヒ宜敷様拜承仕候得共、中井氏ト行違は
無之哉ト愚考仕候間、此段今一応相伺度御面倒之
義恐縮ニ候得共、御門弟へ被仰聞御寸報相煩度、
右同度迄草々頓首

十月廿三日

奥平昌邁

池田先生 坐下

2 明治 年8月31日 (2159)

拜呈、益々御清勝奉賀候、陳て先日ハ奥平氏ニ早
速御来臨被下難有奉謝候、爾后腹満も余り増大致
さず、尤も食后ニは最も膨満致候、即ち二十九日
午後五時四十五分、食后腹囲臍部ニ於て七十九セ
ンチメートル之処、三十一日 午前十一時食前七
十五センチメートルニ御坐候、尿ハ蛋白ハ無之候
得共胆色素ハ発現致候、尿量ハ廿九日二合六勺
余、三十日三合九勺五^(ママ)夕余、(欠)ハ十分ニ有之
候得共(欠)膨満を恐れ自然減少之様子、服薬ハ
杜松子醋剥之水薬四日間相用之、本日より御命之
如く実菱浸八^三、硝弱四十五^五ニ転し稀塩酸
へプシネ、ホミカ丁之水劑を兼用致し置キ候、右
大略容体申上候間、尚四五日中ニ御序も御坐候
ハ、御臨診奉願上候、早々拜具

八月三十一日

中井常次郎

池田先生

再白、体温ハ常ニ七度以下ニて今朝ハ漸ク七度
二分ニ御坐候

3 明治 年9月23日 (2161)

拜呈、益々御清福奉賀候、陳て奥平君容体ハ左記
之如クニ御坐候、尿中蛋白ナシ、脈尚六十位、熱
ナシ、十七日 尿量二合0四才、腹囲^八八十九仙
遅、十八日 尿量二合三勺、腹囲同八十九仙遅、
十九日 尿量二合一勺五才、腹囲同九十仙遅、二
十日 尿量二合一勺五才、腹囲同九十仙遅、二十

一日 尿量二合〇五才，腹囲同九十一仙遅，二十
 二日 尿量二合〇五才，腹囲同九十二仙遅，二十
 三日 尿量未詳，腹囲同九十一仙遅，右之通ニテ
 身体他部ハ瘦削を増ス，足背少々浮腫ス，然トモ
 尚歩行する事ヲ得ル，食欲ハ善良ニ御坐候，其他
 大便も一日二三回有之候，尚又御都合次第御来臨
 奉願上候，恐々謹言

九月二十三日 中井常次郎
 池田先生

4 明治 年10月28日 (2164)

拜啓，益御清穆奉賀候，陳て奥平君御申示之海葱
 剂相用い候処，先ツ大便通十分ニ有之候得共尿利
 ハ矢張同様ニテ式合六七合^(ママ)ニ御坐候，且ツ下肢
 及陰囊浮腫ニテ御困難之趣き，腹囲百〇半仙遅，
 食欲少々減少，依て本日ハ幾那剂ニ改メ置き申
 候，右之症状なるニ依リ明日ハ御都合御来診之程
 奉願候，右要用迄申上度如此ニ御坐候，早々拜具

十月二十八日 中井常次郎
 池田先生

5 明治 年11月23日 (2160)

拜呈，御尊体御風邪氣之御趣き御保護奉禱候，陳
 て奥平殿先日鳥渡申上候后漸次衰弱相加里，本日
 ハ殊ニ甚敷く，困却罷在候，実ニ一兩日ハ亜爾箇
 児ニ依リ続命之景況ニ御坐候，即ち武蘭兌剂少々
 情タレハ脈乍ち細数となり且ツ呼吸短促咳嗽頻発
 四肢厥冷心下煩悶之症を發し候，右之如き景況ニ
 候故武蘭一昼夜ニ凡々四五^三服用ニ相成候，然ニ
 尿ハ凡々四合位加之大便三四行尤も食后凡々五六
 時ニテ候，食物余り無変由承知候，右之如しと雖
 トモ御当人ハ必ず三四行之便通を要望ニ御坐候，
 精神ハ益々過敏となり睡眠減少ニ御坐候，先ツ御
 容体大略如此ニ御坐候間此段御報知申上候，早々
 拜具

十一月廿三日夜 中井常次郎
 池田先醒

[9] 加納久宜の書簡

加納家は上総一宮藩主家(1万3000石)
^{ひさよし}
 久宜は嘉永元年生まれ大正8年没。三池藩主立

花種恭の弟で加納家の嗣養子。文部・司法畑を歩
 み後農事改良に努め帝国農会初代会長。子爵。享
 年72。(1848-1919)

1 明治 年 月 日 (1464)

拜啓，愈御清康慶賀之至ニ候，諸当体育会ハ有志
 之賛助ニ依リ国家ニ貢献シ来候処，今般総裁宮殿
 下之御令旨を奉じ，此際戦捷と共ニ益々本会之事
 業を拡張して富国強兵之基礎を固め申度候間，別
 紙趣意書御一覽之上御入会御賛助之榮を蒙リ申度
 御依頼旁々此段得貴意候，敬具

日本体育会長 子爵 加納久宜
 池田謙斎殿

尚々御賛助御決定を仰かれ候ハバ別添ハかきニ
 御一報被下度，此段申添候也

[10] 亀井茲監・茲明・家扶・家従・橋元至矣・
 高橋孚人の書簡

亀井家は石見津和野藩主家(4万3千石)

^{これみ}
 茲監は文政8年生まれ明治18年没。筑後久留
^{よりのり}
 米藩主有馬頼徳の6男。亀井茲方の嗣養子。幕末
^{これかた}
 王事に尽力。維新後議定を勤める。伯爵。享年61。
 (1825-1885)

^{これあき}
 茲明は堤哲長3男。茲監の嗣養子となる。文久
 元年生まれ明治29年没。侍従を勤める。伯爵。
 享年36。(1861-1896)

1 年1月28日 (1440)

為年頭之慶儀鳥目百疋宛到来欣覚候也

正月廿八日 隠岐 茲監 花押
 浅井万次郎殿
 小林敬亮殿
 池田多仲⁽¹⁾殿
 山本琴谷殿

(1) 池田多仲(玄仲)は池田謙斎の養父。代々
 津和野藩医を勤め後年幕府奥詰医師に榮進。

2 明治 年6月22日 (1638)

薄暑之候愈御清隆奉恭賀候，過日以來少々御不快
 之由ニ承リ候処，其后如何共御坐候哉，追々御全

快之御義ト奉察候、扱先達て至矣ヨリ御直話申上置候処、来月二日御差支無之候ハ、御招申上度旨ニ付、乍御苦勞午后四時御来車被下度此段御案内可申上旨茲監申付候間如此ニ御坐候、頓首

六月廿二日 亀井茲監 家扶

池田謙斎様

追て若シ二日御差支ニ御坐候ハ、三日同時御来車奉相願度、甚乍御手数兩日之内御成否被仰下度、其刻山川幸喜君も招請致度ニ付此段申添置候也

3 明治 年3月29日 (1444)

拝啓、益御多祥奉賀候、陳は従三位平常相用候丸葉無之候ニ付、明三十日午前迄ニ御葉取差出候間、右迄御調劑被成置候様御依頼申上候、右迄如斯御座候也

三月廿九日 亀井家 橋元至矣

池田謙斎殿

4 明治 年8月4日 (1443)

拝啓、兎角不順之候益御清榮奉賀候、陳は従三位義少々風邪之容体且啖咳等有之候ニ付、本日中ニ御来車御診察被下候様奉頼候、尤御差間ニ候得は小原静氏御差出被下度、御同人モ御差支之義有之候ハ、外御代診御方是非共本日中ニ御来車被下候様奉待候、右御頼迄如斯御座候也

八月四日 亀井家 橋元至矣

池田謙斎殿

5 明治 (17) 年6月6日 (1438)

拝啓仕候、暖氣之候益御清適被成御奉職大賀無量奉存候、陳は茲明嫡男⁽¹⁾過日来少々青便分利打続候ニ付、秋元隆益老・山川幸喜老度々御苦勞相願候処、未タ快復ニ至り兼、丸山邸隠居ニ於いてモ心配被致候、猶秋元山川両先生モ尊老御診察願置候様被申聞候ニ付、昨日鳥渡以使御頼申上候処、折節御上直之由、尤小原先生御代診をモ相願候処、是又御他出中之由、就テハ尊老本日御退出後は定テ御疲レト奉察候間、何卒御繰合ヲ以明七日早朝之内当邸へ御来車被下御診察被遣候ハ、茲明ニ於テモ大慶可被致、此段更ニ御依頼申上候様

被申付候間、如此御坐候、草々頓首

六月六日 亀井 家扶

池田大先生 閣下

(1) 茲明^{これあき}の嫡男^{これつね}茲常。明治17年4月17日生まれ昭和17年没。式部官兼主筆官・侍従。伯爵。享年59。(1884-1942) 明治17年の書簡か。

6 明治 年12月14日 (2403)

謹呈、日増寒威相募候処、尊堂被為揃益々御安泰被成御座奉大賀候、兼て薄々御咄申上置候通廿日二十一日之頃ニハ伊豆熱海罷越候ニ付一応罷出御診察ヲ希度候、依テ明十五日朝例刻迄ニ罷出候ニ付何も相願候、若又明日御差間候ハ、十七日朝罷出度、其上ニテ昨年之通御葉初夫々御願可申心得ニ御座候間御在邸之有無此者へ御一報被下置候様希候、右は御頼旁如此御座候、謹言

十二月十四日 亀井家 橋元至矣

池田謙斎大人閣下 貴下

7 明治 年3月17日 (1439)

従三位殿⁽¹⁾御儀熱海入浴中御病氣之処、漸々御衰弱相加り、内実御危篤之症ニ有之候趣急報有之候間、不取敢此段及御通知候也

三月十七日 亀井 家從

池田謙斎殿

(1) 従三位は亀井茲監の事

8 明治 年3月20日 (1437)

謹啓、熱海表へ御出張相願度儀ニ付、昨日御面談仕置候処、昨夜ニ到り容体内実危篤之趣電報有之候間、最早御出張相願候ニ及び申間敷と奉存候間、左様御承引被成下度、不取敢此段内申仕候、拜具

三月廿日 亀井内 高橋孚人

池田侍医殿 貴下

9 明治 年3月21日 (1441)

(電報)

(発局) 第九号 アタミ局 三月廿一日 午三時

二十分 字数三六字

(着局) 第三号 本郷電信分局印

(届) スルカダイ イケタケンサイ

(出) アタミフジヤニテ カメイコレアキ

ヤウフジカンヤマヒキトクニヲチイリタリトイ
トウホウセイノシンダンナリ

10 明治 年9月18日 (1442)

拝啓、秋暑御坐候処、益御安祥被成御坐奉賀候、然は邸内高橋孚人妻、去年下旬分婉致候処、尔来気分綻と無之候ニ付、更ニ山川先生へ御診察相願御執じも被下候処、頃日ニ至候ては疲労相増熱度も相進候次第、山川君ニおいても御懸念之由ニて、何卒大家え御相談相成度ト之事ニ付、先生え御依頼可仕哉之旨山川君へ御相談仕候処、可相成は先生御苦勞被下御診も被成下候ハ、別て都合可宜ト之事ニ有之、当邸ニ於テモ兼て先生え相願度存居候義ニ付、甚卒尔之至御坐候得共、何卒至急御来車御一診被成下候ハ、別て難有可奉存候、折節御参内中ニモ御坐候ハ、御退出掛直ニ御来臨奉願度、此段御頼申上度草々如此御坐候、頓首

九月十八日 亀井茲明 家扶
池田先生閣下

再伸、乍御手数御回答奉希候、其御様子次第ニて山川君へ是より御通知ニ及、同時御参会相成候様仕度、此段宜奉頼候也

[11] 酒井忠篤・忠實の書簡

酒井家は出羽荘内藩主家(17万石)

ただずみ
忠篤は嘉永6年生まれ大正4年没。幕末新徴組を組織し江戸市中を取締ったが戊辰戦争に敗れ家督を弟忠實に譲り謹慎。後兵部省御用掛。伯爵。享年62。(1853-1915)

ただみち
忠實は忠篤の弟。安政3年生まれ大正10年没。明治元年家督を継承するが明治13年家督を忠篤に返上する。ドイツに留学し法律を学ぶ。家督を返上後鶴岡にて郷土産業の発展に努める。伯爵。享年66。(1856-1921)

1 明治 年5月28日 (1707)

爾来は絶て伺不申候得共弥御清適御奉務之段奉賀候、随て家扶加し山と申者、当月上旬より不快罷在、格別之事ニも有之間敷奉存候得共、兎角果敢取不申困入候、乍去先生之御来車ヲ奉頼候儀ニも無御坐候間、何卒御序を以兩日中御高弟之内御老名御来診被成下度、此旨忽々相願度、猶期拜眉候、不備

五月廿八日 酒井忠篤
池田君

2 明治 年2月7日 (1708)

謹啓、陳は此寒中ニも御異情不被為在、増御康健之段奉敬賀候、乍思御無音打過御申訳無御座失礼之儀何分ニも御容捨可被下候、扱甚軽少ニて如何敷者ニ御座候得共、鮭味噌粕漬小包ニて呈上仕候間御笑味被下候ハ、幸甚ニ御座候、小生不快は誠以御蔭其後段々丈夫ニ相成り人々よりも大ニ安心セラレ居り候体ニ御坐候間、乍憚御休意可被下候、只下肢之倦惰状体ハ夜中于今甚敷、一通り之按摩杯ニては聞目も無御坐、此点は如何ナル為ニ御坐候者哉、随分閉口罷居り申候、視望悪感ハ一昨年迄ニハ年ニ一度は必発作有之候得共、昨年は一回も無之、是ハ秋入湯例年よりも余程早く寒冷前ニ致シ候為ニ候者乎、又タハ発作模様有之候前方ニ予防トシテ速ニ臨時臭素剤相用ヒ候為ナル乎、何ツレ近来ハ此悪感状体無之何より之安心ニ御座候、一体臭素剤ハ于今平生極ク軽量ニ連用罷居り申候、其上少シニテモ悪感及ヒ眩暈等之気味有之候折リニハ必臭素ヲ増加シテ服用致シ候、其ノ為ニ此ノ患ハ惹起セサル者乎、又前陳入湯期ヲ早く致候為ナル乎、一体快期ニ向ヒ候者ニヤ、何分も御推察可被下候、序ニ申上恐入奉存候得共、右草々得貴意申度、言語渋滞之点は先ツ大低差間無之体ニ御坐候、尚余寒折角御自重可被為成奉禱候、敬白

二月七日 酒井忠實
池田謙齋殿

尚々本文小生近來之模様申述候、若シモ御心附之箇所被為在候て、御序之折ニも被仰下候ハ、何より之安心ニ御坐候得は甚恐縮ニ御坐候得共

伏て奉願上候、以上

[12] 相馬家家令の書簡

相馬家は陸奥中村藩主家（6万石）

誠胤ともたねは嘉永5年生まれ明治25年没。子爵。享年41。（1852-1892）

1 明治17年3月22日（1082）

謹啓、陳は過日御高診相願候奥方⁽¹⁾事養生不相叶、昨廿一日午後七時死去仕候、右参上御報知可申上之処取込中、乍失礼以郵便申上置候、勿々頓首

三月廿二日 相馬家々令
池田謙斎様 御執事様

(1) 陸奥中村藩主相馬誠胤夫人京子。戸田光則みつひさ
3女。嘉永6年生まれ 明治17年3月没。享年32。（1853-1884）

[13] 伊達宗城の書簡

伊予宇和島藩主伊達宗城だてむねなりの書簡は「東大医学部初代総理池田謙斎」下巻に掲載に付省略

[14] 津軽家家扶・津軽純夫の書簡

津軽家は陸奥黒石藩主家（1万石）

承叙つぐみちは天保11年生まれ明治36年没。津軽順朝2男。嘉永4年陸奥黒石藩家を継ぐ。戊辰戦争に功あり。子爵。享年64。（1840-1903）

純夫は承叙の2男。

1 明治 年3月22日（2054）

各位益御清適被為成御坐奉珍賀候、陳過日御転宅ニ付右為御祝義甚乍籠末交肴籠被進候ニ付則御廻申上候、可然御取計被成下候、此段早卒頓首

三月廿二日 津軽承叙 家扶
池田謙斎様
執事申様

2 年 月 日（2055）

恭呈仕候、時下春色相催候折柄先以て御清榮の段奉欣賀候、扱て私儀ハ亡子爵承叙の次男に有之、

是迄哲学館講師、京北中学校英語専任講師国民英学会の講師に聘せられ居候処所、思有之断然教職を辞し一意専心実業界に身を投じ洋服店開業仕候、就ては店業を拡張し基礎を定め世の信用を買ひ可申様仕度依りてハ亡父生前の御厚情に甘へ格別の御眷顧（欠）精練は申すに不及品質切地の儀は英国より新柄を精撰致し直取引致候て価は廉に充分貴意に応候様可仕候間他店と御比較の上御注文之程何卒奉願候、店員は時々参邸為致可申候、その節新規御注文は勿論御修繕物に至迄御用向の程偏に奉願上候、恐惶頓首

東京市京橋区南鍋町式丁目四番地
津軽洋服店 津軽純夫

[15] 徳川家達・家扶の書簡

徳川宗家

家達いえさとは文久3年生まれ昭和15年没。明治元年慶喜の謹慎により家名相続。明治36年より30年間貴族院議長勤める。又華族会館々長・恩賜財団済生会々長等を歴任。公爵。享年78。（1863-1940）

1 明治22年5月18日（2099）

関口隆吉⁽¹⁾儀厚御丹精被下難有、然処昨日俄ニ容体相変し終ニ死去致し候旨電報到来致し候、彼地より申上候義と存候へ共尚申上候也

五月十八日 徳川家達 家扶
池田謙斎様
執事御中

(1) 関口隆吉たかよしは天保7年生まれ明治22年没。幕臣。彰義隊に参加。山形・山口・静岡県令を経て明治19年静岡県知事。明治22年5月17日愛知県招魂祭出席途上列車事故負傷が原因で死亡。享年54。（1836-1889）。新村出の父。

2 明治31年4月 日（2106）

北白川宮能久親王御銅像建設募金依頼通知書
(印刷物 略)

3 明治31年5月11日（2100）

華族会館第2総会開催通知書 (印刷物 略)

4 明治32年2月28日 (2107)
 明治31年1月より12月迄華族会館事務報告・出納決算書 (印刷物 略)

5 明治37年5月23日 (2102)
 華族会館創立記念式通知書 (印刷物 略)

6 明治37年5月23日 (2103)
 黒田侯爵・曾我子爵連合艦隊慰問派遣の通知書 (印刷物 略)

7 明治40年11月18日 (2105)
 小松元帥宮殿下御銅像建設に関する通知書 (印刷物 略)

8 明治41年2月10日 (2101)
 華族会館改選投票・通常総会通知書 (印刷物 略)

9 明治41年5月21日 (2104)
 皇后陛下御誕辰祝賀晩餐会の案内書 (印刷物 略)
 華族会館創立記念日案内書 (印刷物 略)

[17] 徳川(慶勝・義禮)家家扶の書簡

徳川家は徳川御三家の一つ尾張名古屋藩主家(61万9500石)

慶勝(慶恕)は文政7年生まれ明治16年8月没。安政5年幕命により隠居したが3男義宜の死去により明治8年当主に復帰。明治13年義禮に家督を譲り隠居。幕末には公武間幹旋に奔走、又新政府に率先協力した。侯爵。享年60。(1824-1883)

義禮は松平頼聡2男、慶勝の嗣養子。文久3年生まれ明治41年5月没。侯爵。享年46。(1863-1908)

1 明治 年11月4日 (2108)
 拝啓、愈御清穆被為渉奉恐賀候、然ハ義宜⁽¹⁾方容体之義ニ付早速御参診被成下度、此段御依頼可申上旨慶勝申聞候、付てハ委曲永坂周二⁽²⁾より容体ハ申上候付別封御披見之上可成丈御繰合御来車被成下度此段御依頼申上候、頓首

十一月四日 徳川慶勝 家扶
 池田謙斎様

(1) 徳川義宜は慶勝の3男。安政5年生まれ明治8年没。享年18。(1858-1875)

(2) 永坂周二は尾張名古屋出身。弘化2年生まれ大正13年没。医師・書家・漢詩人として著名。享年80。(1845-1924)

2 明治 年1月30日 (2115)
 (端裏書) 池田謙斎様 徳川従一位 家扶

拜啓、嚴寒之候御座仕処、愈御清康奉恭賀候、陳ハ義恕方眼氣も兎角眼濁たゝれ候様ニも有之、并ニ女中之内老人御診察も相願度候間、御繁多ニハ可被為在候得共、明日歟明後日之内御都合御宜候ハ、何卒御参邸被成下度、此段御頼為得貴意旨従一位申付候間、御都合被成下、御出被成下候日時貴報之御申越被下度奉希候、頓首
 一月三十日

3 明治 年3月13日 (2112)
 拝啓、各位愈御清康奉賀候、陳ハ昨日以使者相願候近日先生当邸へ御来臨之儀幾日頃御枉車被成下候哉、御模様奉窺度、乍御面倒可相成ハ時刻等御教示奉希度、此段各位迄御依頼可申述、勿々頓首
 三月十三日 徳川邸 家扶
 池田謙斎様
 執事御中

4 明治 年4月12日 (2109)
 拝呈、春暖之候ニ御座候処益御清祥被為渡奉恭賀候、然ハ慶勝持病に付先生ニ御診察相願度甚自由ケ間敷候得共、明後十四日御見舞被成下度、此旨慶勝御依頼申上候、同日御差支無御座候ハ、永坂周二え申聞置度候間、大凡御時刻伺置度此段も御依頼申上候也
 四月十二日 徳川慶勝 家扶
 池田謙斎様

5 明治 年4月18日 (2110)

拜啓、益御清祥奉拵賀候、陳ハ今十八日御來臨被下候刻限ハ何時頃ニ候哉、永坂氏其節罷越候ニ付同氏承知被致度、依て一応相伺候、乍御面倒否御報知被下候、御依頼申上候、勿々頓首

四月十八日 徳川慶勝 家扶
池田謙斎 老台

6 明治 年9月25日 (2113)

（端裏書）池田謙斎様 徳川従一位 家扶
御呈、秋冷相催候処、愈御清穆奉恭賀候、陳ハ従一位末男義□義頃日中脳水多分の方ニ付、永坂周二療養罷在、先以為差義ニハ無之歟ニ候得共、兼て御承知之通虚弱之生質ニ付、心配之次第ニ御座候間、何卒御診被成下、尚御見込之程ヲモ相伺度申聞ニ付、其段使鈴木高美ヲ以昨夕貴邸迄御依頼被及候処、未タ御帰宅前之由ニ付委曲御留守へ申述罷帰候義ニ付、昨夜御聞取被下候義と奉存候得共、為念尚以書中奉願候、右ハ御多繁之御中恐縮之至ニ候得共、御繰合御診被成下度、宜及御依頼旨従一位義此段奉頼候、草々頓首

九月廿五日

7 明治 年3月10日 (2116)

（端裏書）池田謙斎様 徳川従一位 家扶
拜啓、春和相催候処、愈御清暢之段奉恭賀候、陳過日ハ早速おと代⁽¹⁾義御見舞被下忝奉存候、就てハ御多端之御中ニハ可有御座候得共、其後之容体委曲永坂より可申上候間御聞取被下兩三日之内尚又御見舞被下度、此段宜及御依頼旨従一位被申付、如此御座候、草々頓首

三月十日

(1) とよ（登代）は徳川慶勝4女。徳川義禮夫人。安政4年生まれ明治41年没。享年52。（1857-1908）

8 明治 年3月23日 (2114)

拜啓、春雨暖和相増申候、愈御清暢奉欣賀候、陳ハ御多端之御中よりおと代方御見廻被下忝奉存候、就てハ尚又兩三日之内御見廻被下度、且此一折甚御龜末之至御座候へ共、従一位より御贈被申度、此旨小生共より宜得貴意旨被申付、右御依頼旁如斯御座候、頓首

三月廿三日

池田謙斎様 徳川従一位 家扶
御執事申様

9 明治 16年8月2日 (2117)

以手紙啓上仕候、陳ハ慶勝儀病氣ニ付追々御診察被下候処、漸々差重り終ニ養生不相叶今二日午前第七時死去被致候、此段為御知申上度如斯御座候也

八月二日 徳川義禮 家扶
池田謙斎様
御執事申様

（注）朝日日本歴史人物事典・明治維新人名辞典によれば徳川慶勝の没日は明治16年8月1日となっている。

10 明治 年9月11日 (2118)

拜啓、益御健康奉賀候、陳ハ昨日ハ御繰合早速御来診被成下辱次第（欠）奉存候、不取敢（欠）挨拶被申述度（欠）品甚乍粗末拜呈（欠）度為持差出候、（欠）投厨可被成下（欠）斯申上度、勿々拜具
九月十一日 徳川義禮 家扶
池田 健 斎様

11 明治 年12月21日 (2119)

拜啓、益御健勝被為涉奉賀上候、陳ハ患者米子⁽¹⁾儀尔後容体別ニ異状無御坐候得共、今明日中御都合ヲ以尚御診察置被成下候様被致度、此段宜御上申奉願候也

十二月廿一日 徳川義禮 家扶
池田謙斎様
御薬局御中

(1) 米子^{よねこ}は義禮の長女。嗣養子義親^{よしちか}夫人。明治25年3月生まれ昭和55年10月没。(1892-1980)

[17] 徳川慶久の書簡

慶久^{よしひさ}は徳川宗家別家慶喜^{よしのぶ}の長男。明治17年生まれ大正11年没。華族世襲財産審議会議長を勤める。公爵。享年39。(1884-1922)

1 大正3年1月11日 (2111)
 拝啓、陳は父薨去之際は早速御弔問を辱うし御厚情之段難有奉拜謝候、本日忌明に付、乍略儀書中を以て御礼申上候、敬具
 大正三年一月十一日 公爵 徳川慶久
 男爵 池田謙齋殿

[18] 戸田氏共・家扶の書簡

戸田家は美濃大垣藩主家(10万石)
 氏共^{うじたか}は兄氏彬^{うじあきら}の死没により慶応元年4男にして家督相続。安政元年生まれ昭和11年没。宮中顧問官・主猟局長・式部長官歴任。伯爵。享年83。(1854-1936)

1 明治 年7月13日 (2145)
 謹啓、陳は毎々御苦勞被成下、高庇ヲ以難有奉謝候、依之乍薄義左之通被相贈候間、宣布御披露被成可被下候、草々

七月十三日 戸田氏共 家扶
 池田謙齋殿

御執事

御肴料

一、金六拾円

同断

一、金七円 竹井静殿え

同断

一、金八円 松野殿え

一、金三円 御馬丁え

御車夫

〆

2 大正4年5月16日 (2144)
 (封筒表) 宮中顧問官男爵 池田謙齋殿
 (封筒裏) 緘 駿河台北甲賀町九

式部長官伯爵 戸田氏共

宮内省ゴム印

(「五月十八日午前八時三十分賢所前参集所え参着之事」との池田謙齋の書き込みあり)
 来ル十八日稔彦王殿下⁽¹⁾ 聡子内親王殿下⁽²⁾ ト賢所大前ニ於テ結婚ノ礼被行候ニ付、大礼服着用午前八時三十分賢所参集所へ参集可有之、此段及御通知候也

大正四年五月十六日

式部長官伯爵 戸田氏共 印

宮中顧問官男爵 池田謙齋殿

(宮内省用箋使用)

来ル十八日聡子内親王殿下稔彦王殿下ト結婚ノ礼被行候ニ付テハ、当日東宮御所へ参賀可有之、此段及御通知候也

大正四年五月十六日

式部長官伯爵 戸田氏共 印

宮中顧問官男爵 池田謙齋殿

追テ服装男子ハ主官ハ通常服、式官ハ通常礼装、女子ハ通常服又ハ桂袴着用ノ事

(宮内省用箋使用)

(1) 東久邇^{ひがしく}稔彦^{になるひこ}親王は久邇宮朝彦親王第9男子。明治20年12月生まれ平成2年1月没。陸軍大将。終戦直後総理大臣拜命終戦処理を行う。(1887-1990)

(2) 東久邇^{としこ}聡子内親王は明治天皇第9皇女泰宮。明治29年5月生まれ昭和53年3月没。(1896-1978)

(主要参考文献は次回に記す)